



日本地球惑星科学連合が参加学協会と共同で出版する 国際誌Progress in Earth and Planetary Science -創刊，発展，将来の目標・課題-

川幡穂高
PEPS誌総編集長

PEPSの創刊
(2014年)

2025年7月16日（水）15H00-16H00

川幡 穂高

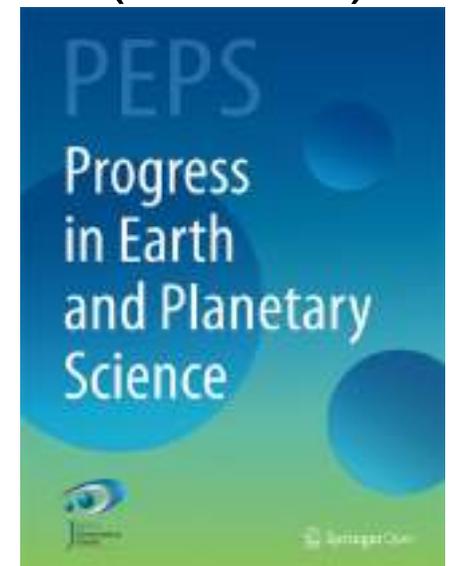
早稲田大学創造理工学部 客員教授

東京大学 名誉教授

自己紹介：

生物地球化学，古気候・古環境

PEPS, JpGU会長，日本地球化学会会長 + 地球環境史学会会長





1. 日本地球惑星科学連合のジャーナル出版の背景
2. PEPSの創刊，発展，将来の目標・課題
3. 付録：ジャーナル関係の背景

2025年7月16日（水） 15H00-16H00

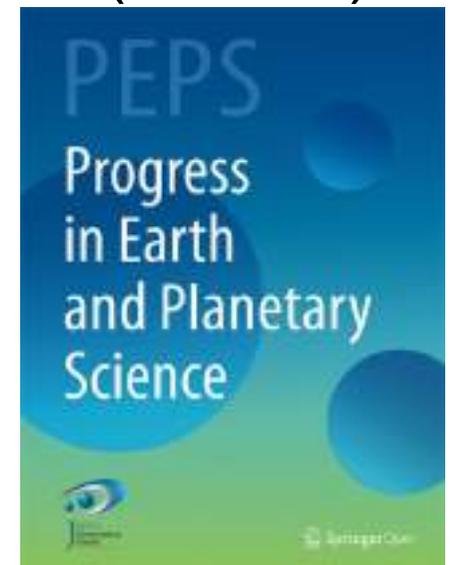
川幡 穂高

早稲田大学創造理工学部 客員教授

東京大学 名誉教授

謝辞：永井さまには，新ジャーナル立ち上げ当時から色々情報やコメントをいただき，感謝しております。

PEPSの創刊
(2014年)

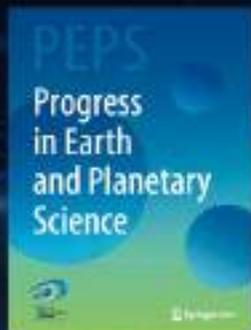


Abstract

私たちは一人で研究しているのではなく、「研究生態系」の中で生きている
→Communityのレベルは、特に秀でた成果創出の土台となる

- 「学際的研究の促進」「統合的概念の創出」のため、日本地球惑星科学連合（Japan Geoscience Union, 約50の関連学協会, 1万人の会員）を30年前に発足
- 学会活動の大きな2つの柱：「年会の開催」と「学術誌の刊行」
分野によるが通常「誌上発表」が重要視される
- ①欧米の連合（ユニオン）が出版するジャーナルと同等の質の出版 + ②財政的に十分な収入獲得のため、2014年に学術誌「PEPS」をSpringer-Natureと協力して創刊
- 最初の数年間は（IFなどもなく）質の高い原稿の投稿に苦勞したが、サポーターも数十人存在→「研究生態系」の方々に深い謝意
- 実績（開始から10年が経過）：CiteScore, 5year-IF, 2year-IFなどのジャーナル評価指標を比べると、PEPSは欧米のユニオンの学術誌と同等レベルまで到達
- 現状：出版数、海外の研究者が筆頭著者となる投稿数、学術刊行による収入に関しては、欧米のユニオンとは、まだ大きな隔たり
- 今後10年間の主な課題：「真の国際誌」となるための努力を継続

Progress in Earth and Planetary Science (PEPS)



Science Sections of our Scope

- Space and planetary sciences
- Atmospheric and hydrospheric sciences
- Human geosciences
- Solid earth sciences
- Biogeosciences
- Interdisciplinary research

We welcome your submission of your excellent research work

BlackRain

Peer-reviewed,
Open Access English Journal
published by Springer-Nature
in collaboration with all the participating societies of
JpGU (Japan Geoscience Union)



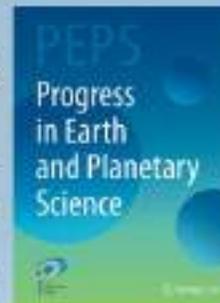
APC (Article Processing Charge) 2025:

- JpGU Member: US\$ 1496 / €1248 / £1072 (28% discount)
- JpGU Nonmember: US\$ 1870 / €1560 / £1340
- Review articles: US\$ 1496 / €1248 / £1072 (28% discount)
- Invited articles: JpGU bears all costs.



<https://progearthplanetsci.springeropen.com/>

SPEPS special issue (Special call for excellent papers on hot topics) Call for papers and proposals



We invite you to submit your paper to SPEPS (Special call for Excellent Papers on hot topics).

SPEPS is an open-type special issue in Progress in Earth and Planetary Science (PEPS).

Papers submitted to SPEPS will go through the same peer review process as usual.

At the same time, papers are added to each SPEPS collection page sequentially and all articles become viewable online at a glance.

Published articles on SPEPS can be checked at the website below.

パンフのデザインは
好みを伝えて外注
後日の活用を考え
フレーバーを変えた2種

SPEPS Proposal Guide:

<https://progearthplanetsci.org/en/aboutspeps/>

Progress on science and instruments for Martian Moons eXploration(MMX) mission



Earth, Isotopes and Organics



10 years after the 2011 Tohoku earthquake: A milestone of solid earth science



<https://progearthplanetsci.springeropen.com/>

今日のIFなどの評価値の話題に関連して

地学（地球惑星科学）のcommunity規模

Nature のIFからの目安

Impact Factor 2023

Nature 64.8

Nature Geoscience 18.3 (Natureの1/3.6 \doteq 27%)

Nature Materials 41.2 (Natureの2/3 \doteq 63%)

Nature Medicine 82.9 (Natureの4/3 \doteq 130%)

Nature Human Behaviour 29.9 (Natureの1/2 \doteq 50%)

創刊前の事前調査:

Natureなどの編集部は

「テレビ局」

→研究者には到底無理

真鍋先生@気候モデリング

今日の話提供内では、以下の「換算値」が目安

IFは地学分野で

4～5あたりが「評判の国際誌」, バイオだと12程度?

2～3あたりは「通常国際誌」, バイオだと7程度?

～ 1あたりは「日本国内の国際誌」, バイオだと2～3程度?

Magazine: 一般的な意味での「雑誌」

Journal: 「専門誌」「業界誌」

時間も労力も限られる現代社会で 研究者が購読する論文は限られる

購読ジャーナルとして研究者に選んでもらえるか？
IFはジャーナル指標，ジャーナル経営には重要因子

研究者は全ての論文を読むことはできない

Probably Japanese researchers can read <100 papers per year

Number of papers a researcher publishes per year

200+

研究者が1年間に読む

平均文献数

According to the report by Tennessee University

④ レビュー（総論）20% + JpGU大会の優秀研究成果を掲載.

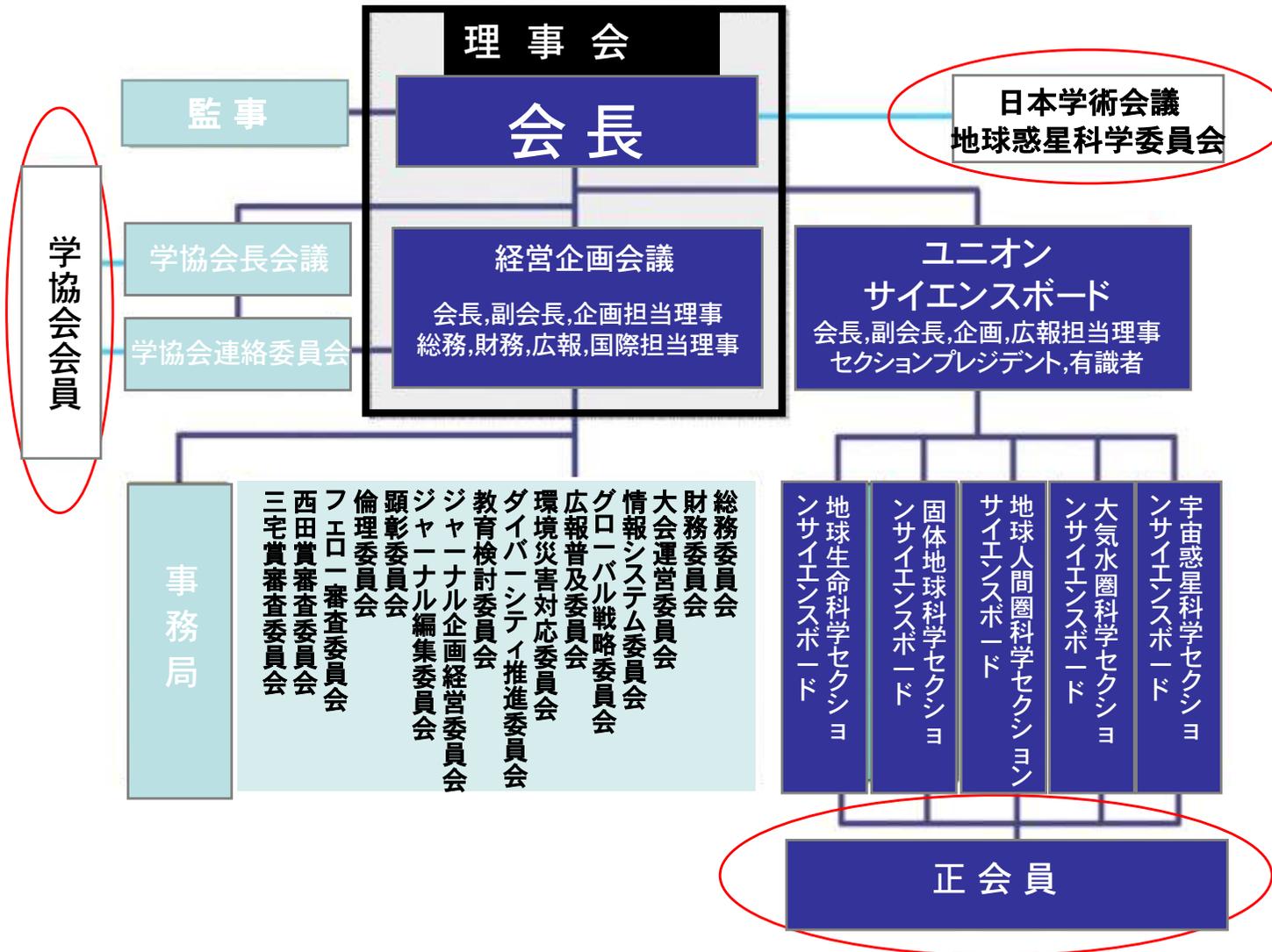
Review (overview) 20% + Original papers 80%

レビュー：特に，若手向けに貢献大，

分野の最先端の成果のまとめ，解決すべき課題と解決戦略

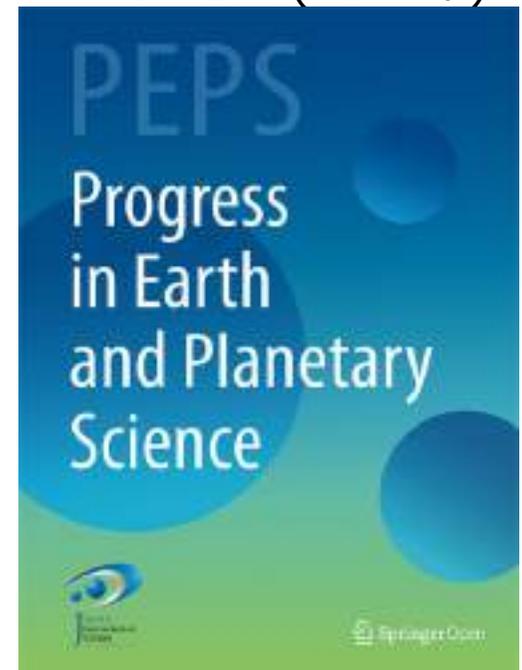
今日のIFなどの評価値に関連して 地球惑星科学のcommunity説明

JpGU (日本,年会1万参加) , AGU (アメリカ,3万人) , EGU (ヨーロッパ,2万人)
= 米国のユニオン = 欧州のユニオン



- 宇宙惑星科学
- 大気水圏科学
- 地球人間圏科学
- 固体地球科学
- 地球生命科学
- 境界領域

PEPSの創刊(2014年)



JpGUの設立の大目的: 専門の深掘りも大事だが

「学際的な研究, 統合的な概念の創出」

宇宙惑星・大気水圏・地球人間圏・固体地球・地球生命・境界領域

46億年間(地球史)=1年間とすると
20世紀, 12月31日23時59分59.3秒

現代の特徴

① 自然の変動範囲を越えた

② 急速・加速的变化

「人新世」は新たな地質時代となるか？

by パウル・クルツェン(2000)

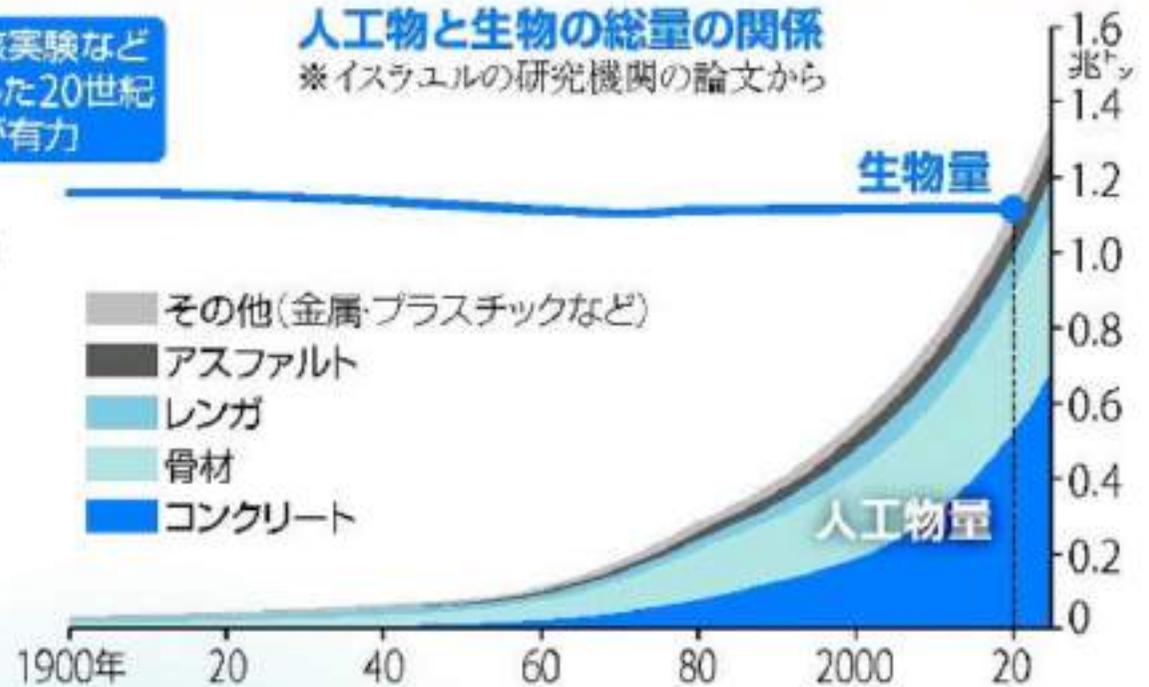
主な地質時代



工業化や核実験などが本格化した20世紀半ば以降が有力

人工物と生物の総量の関係

※イスラエルの研究機関の論文から



急増開始は1950年頃？

地球規模で起こっている現象

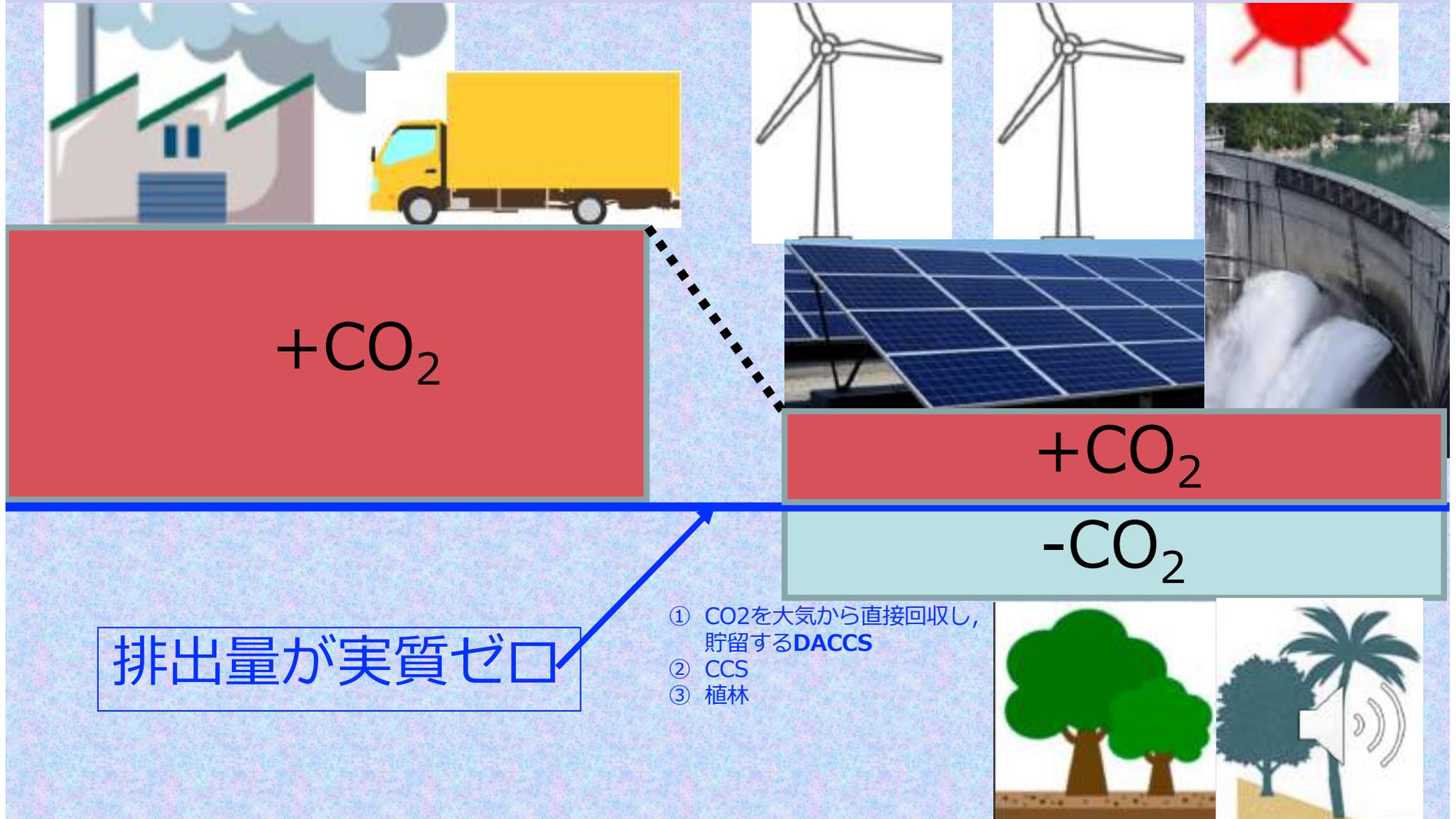
- 地球温暖化
- 森林破壊
- 工業化
- 核実験
- パンデミック(感染症の大流行)
- ...

- ① 人工物 (コンクリート50%. アスファルト6%)
- ② 20世紀初頭, 生物の3%, 爆発的増加 (>1.2兆t)
- ③ 20年後: 今の2倍量の人工物

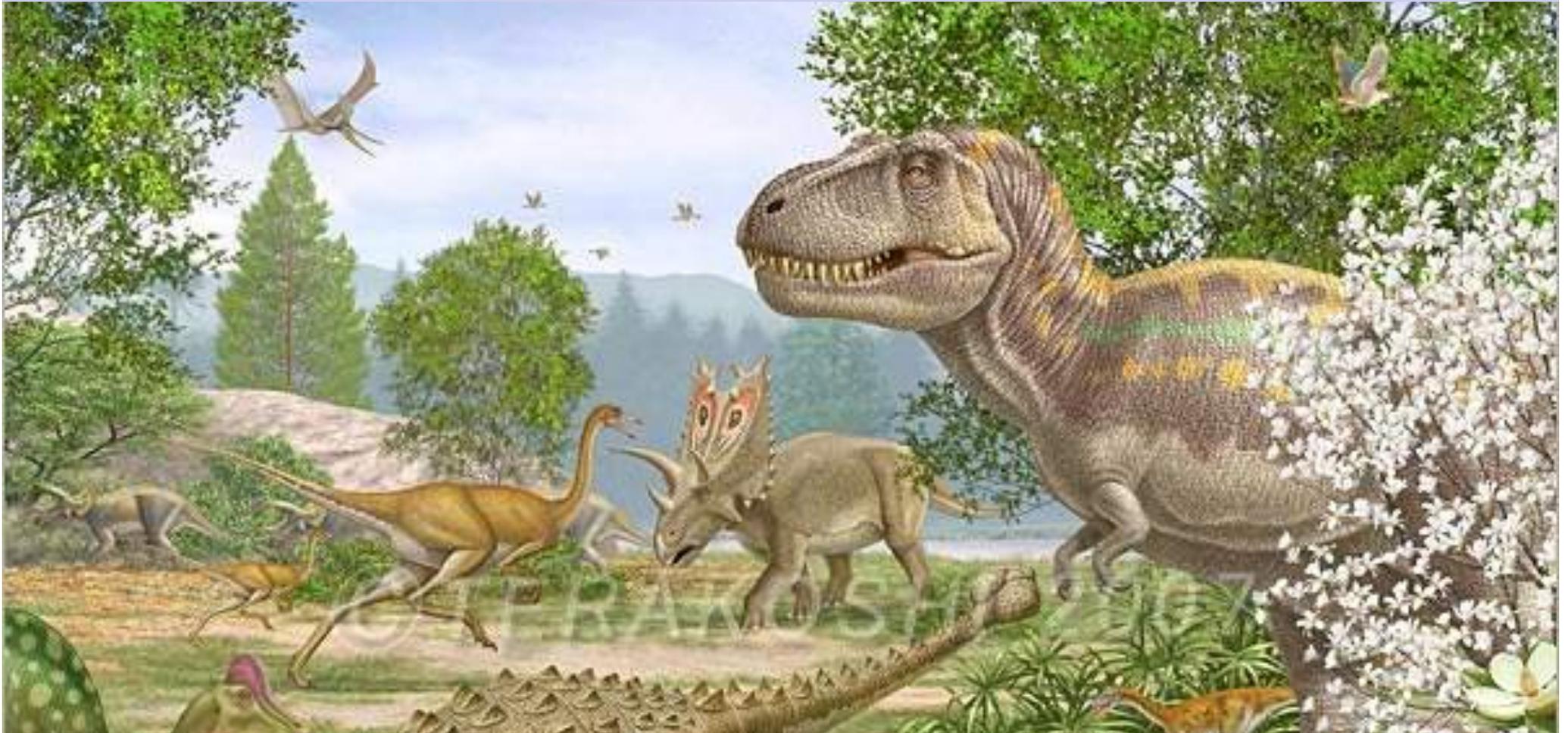
地球人間圏科学

「第4の文明革命」 =

「カーボンニュートラル(中立=実質ゼロ)」 + 「AI」 脱炭素社会の実現を目指す



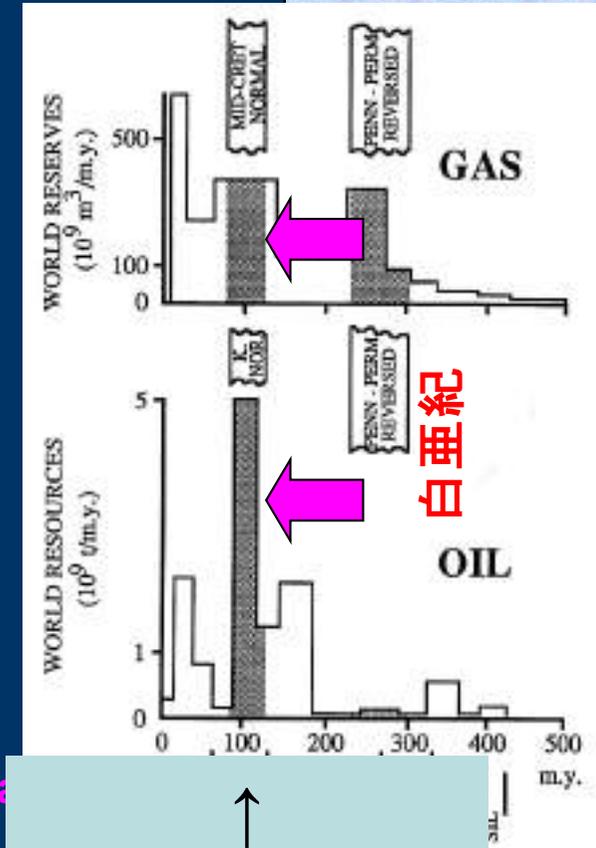
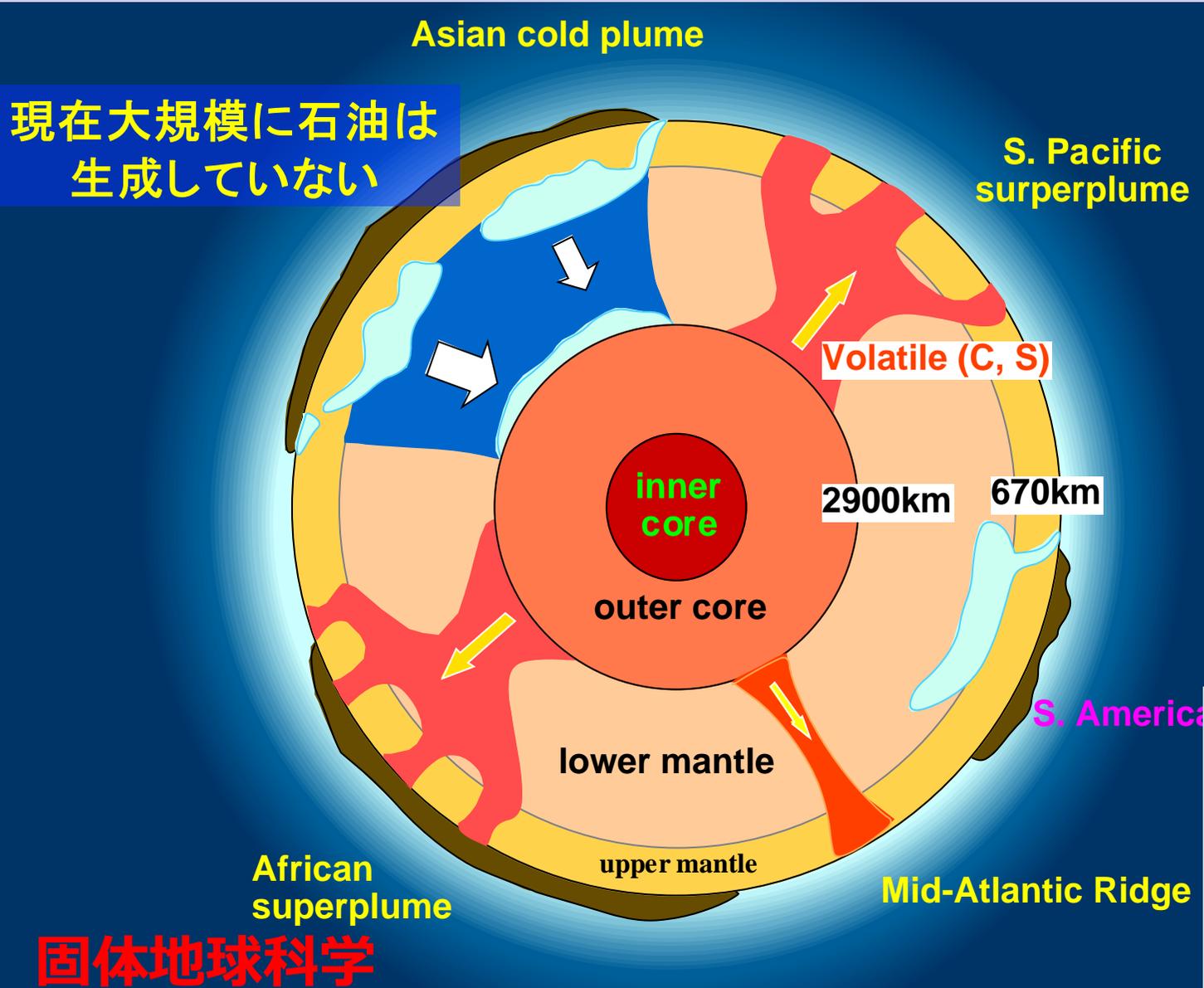
実例：地球惑星科学6分野は密接に結びつく 石油生成・温暖地球・恐竜繁栄



石油の生成年代は限られている
約2億年に一度の地球深部（マントル）での対流活動が原因

地球生命圏科学
境界領域科学

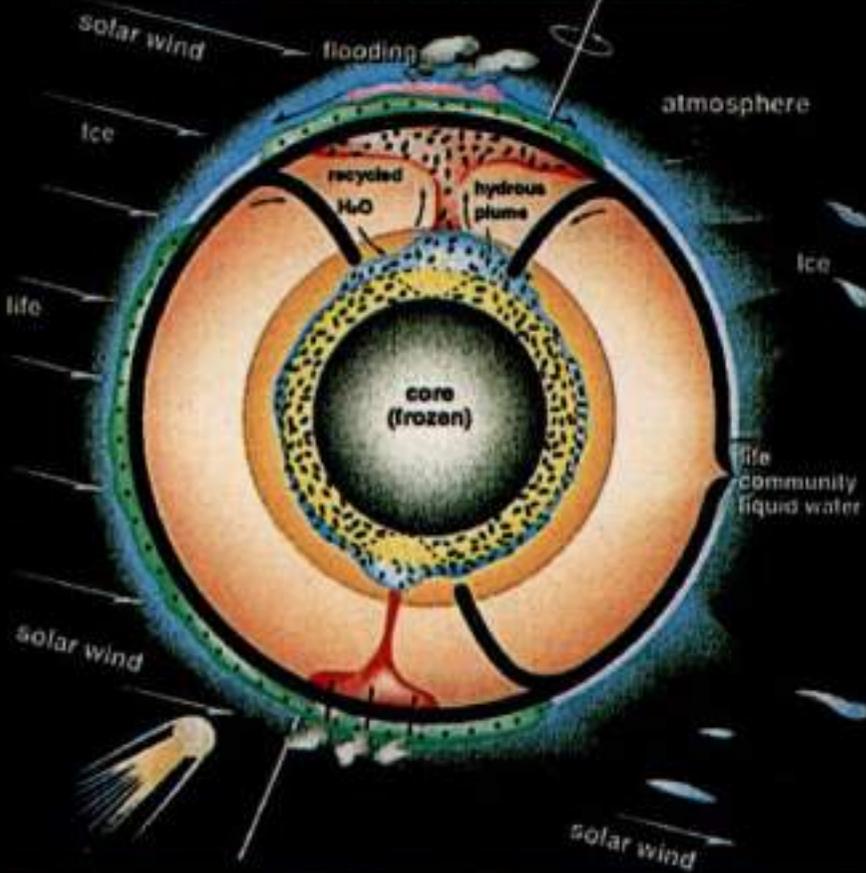
1億年前のスーパープルームの活動→大規模火山活動↑→
CO₂ 供給↑→超温暖気候→降雨量増加→風化土壌→
 植生↑→恐竜繁栄+海成有機物堆積→**大規模石油生成**



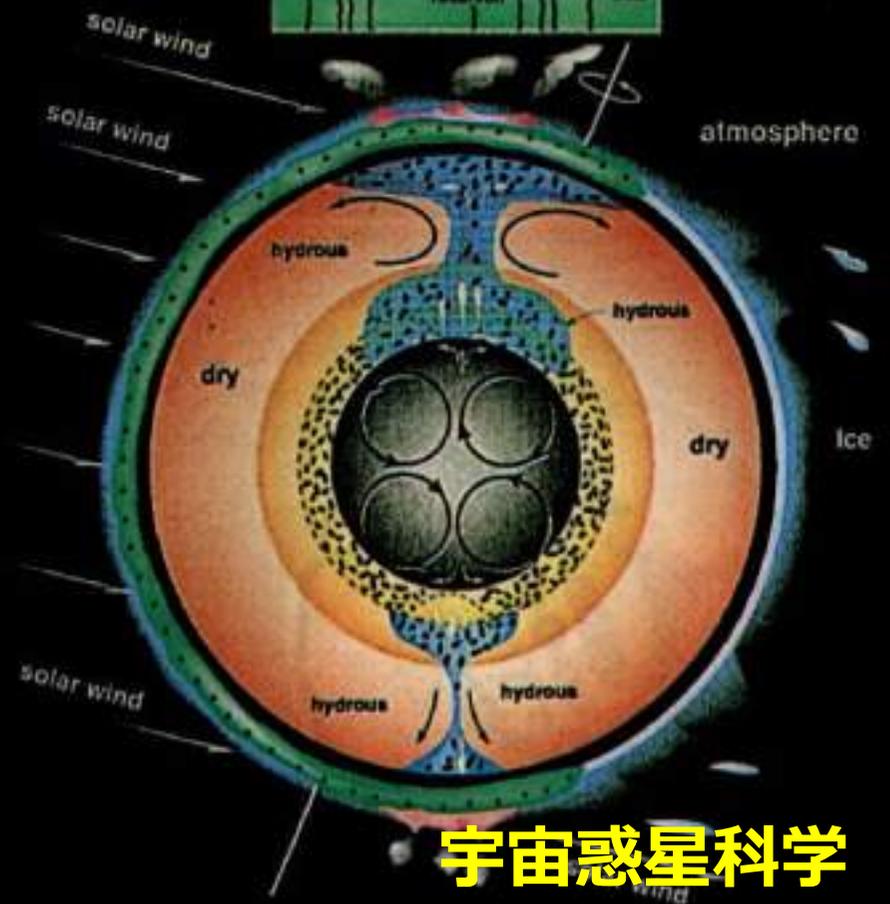
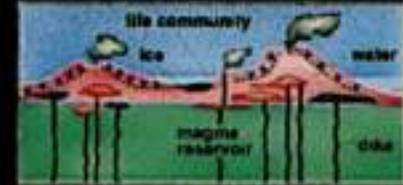
↑
 1億年前
 GAS:天然ガス
 OIL:石油
 の生成

地球と兄弟惑星である火星は小さいので冷えやすく スーパープルームの活動は最初の数億年で終了

Plate tectonics stops
4100Ma Birth of Tharsis superplume

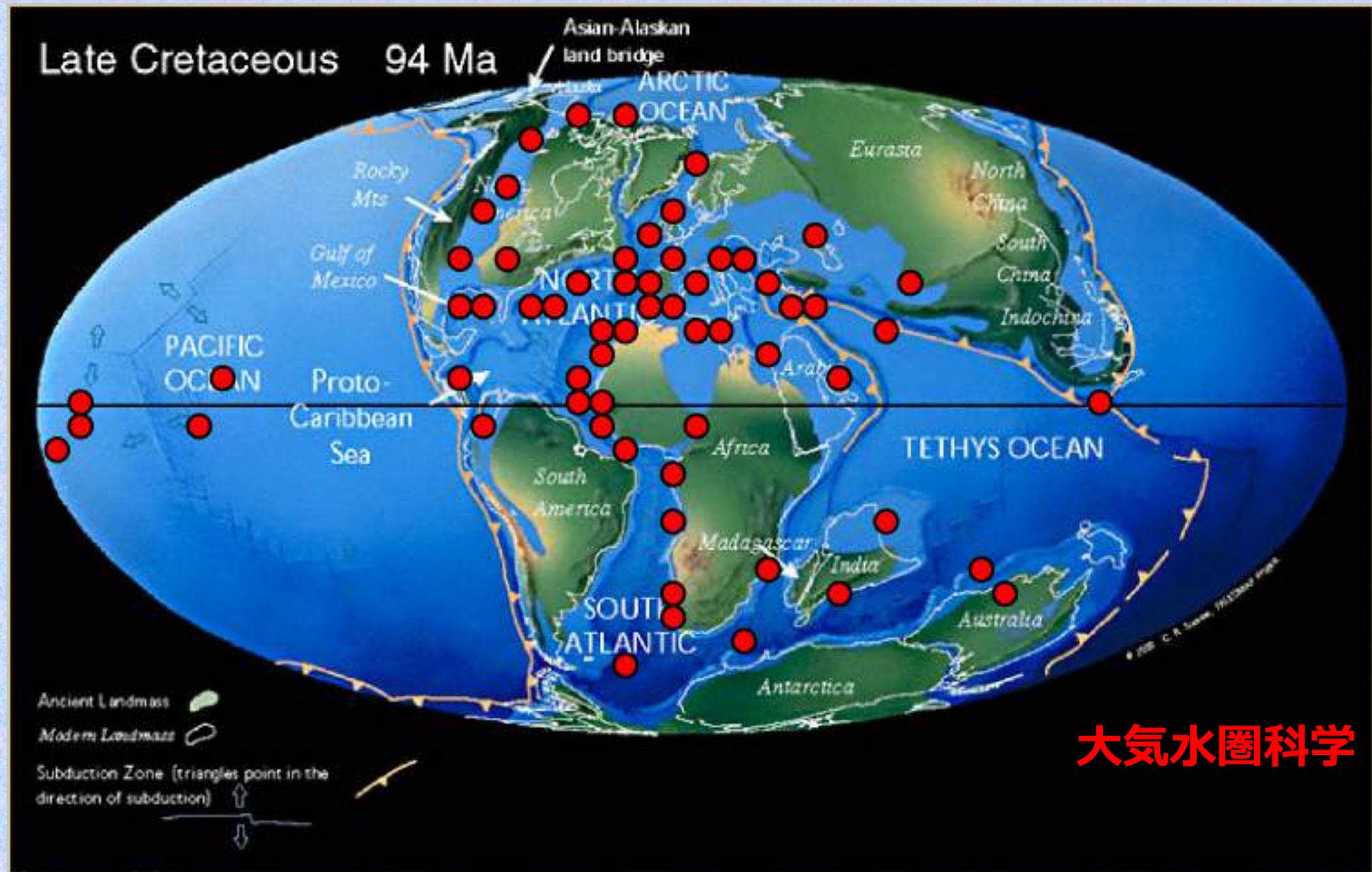


3900-present
One rigid-plate planet with a superplume



宇宙惑星科学

海洋へドロ現象（無酸素事変） + 黒色頁岩→石油生成へ
（フランス+イタリアは当時、海の底、石灰岩が堆積）



大気水圏科学

日本地球惑星科学連合の足跡

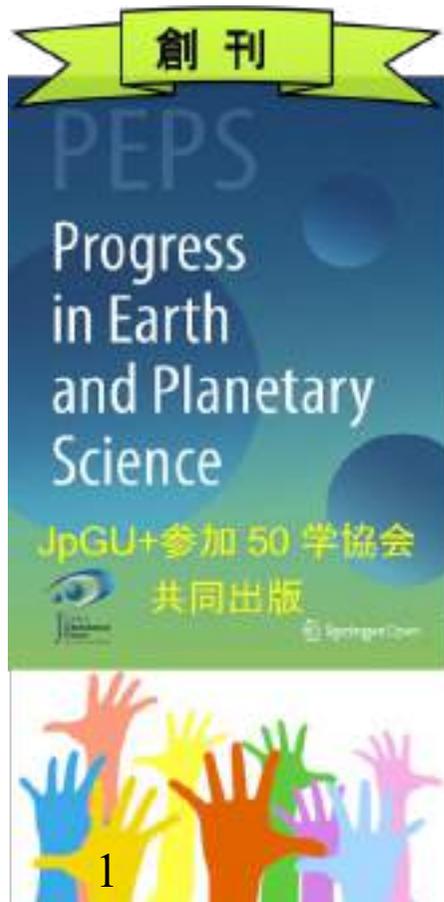
- 1990~2000年 地球惑星科学連絡会時代 5学会 (大学LOC)
- 2000~2005年 地球惑星科学合同大会運営機構
(専任事務局立ち上げ) 15~20学会
- 2005年 5月~ 日本地球惑星科学連合24学会 (設立時24学協会)
新しい日本学術会議に対応する窓口組織
- 2008年 7月 第一回ジャーナルWG (検討開始)
- 2008年12月~ 一般社団法人日本地球惑星科学連合40学会
- 2011年12月~ 公益社団法人日本地球惑星科学連合 (JPGU)49学会
- 2012年10月 PEPS創刊準備・その後編集委員会発足, 2014年創刊
- 2015年 5月 日本地球惑星科学連合2015年大会: 設立25周年記念
AGU, EGU, AOGSとの協定締結
- Science Strategy: 激動するアジアの学界での存在感を維持発展
- 2016年 5月 AGUのジョイントセッション (20セッション程度)
- 2017年 5月 AGUのJoint Meeting (第1回)
- 2020年 5月 AGUのJoint Meeting (第2回) バーチャル
- 2021年 5月 AGU, EGU, AOGSとのJointセッション: バーチャル
- 2024年 5月 AGU, EGU, AOGSとのJointセッション: 現地
- 2024年 5月 AGUのJoint Meeting (第3回)

PEPSは参加学協会との共同出版

→参加学会のジャーナルとの共存（創刊開始が当初より3年程度遅れる）

2012当時の役割分担

- * 参加学会から編集委員の選出：ジャーナルの質の保証
- * 海外編集委員の委嘱：国際化，国際交流
- * 質の高い原稿の執筆依頼
- * パートナージャーナルの宣伝



PEPSはJpGU参加50学協会の賛同に基づき共同出版

(2012年10月2日、JpGU学協会長会議決定事項)

日本宇宙生物科学会，日本応用地質学会，日本温泉科学会，日本海洋学会，日本火山学会，形の科学会，日本活断層学会，日本気象学会，日本鉱物科学会，日本地図学会，日本古生物学会，日本沙漠学会，資源地質学会，日本地震学会，日本情報地質学会，日本水文科学会，水文・水資源学会，生態工学会，日本雪氷学会，生命の起原および進化学会，石油技術協会，日本測地学会，日本大気化学会，日本大気電気学会，日本堆積学会，日本第四紀学会，日本地学教育学会，地学団体研究会，日本地下水学会，日本地球化学会，地球環境史学会，地球電磁気・地球惑星圏学会，日本地形学連合，日本地質学会，日本地熱学会，地理科学学会，日本地理学会，日本地理教育学会，地理教育研究会，地理情報システム学会，東京地学協会，東北地理学会，土壤物理学会，日本粘度学会，日本農業気象学会，物理探査学会，日本陸水学会，陸水物理学会，日本リモートセンシング学会，日本惑星科学会

JpGU独自のジャーナルを創刊する意義と当初の目標

① JpGU参加50学会と協力し、海外へ情報発信強化

JpGU参加50学協会と協力し、海外へ情報発信する国際一流ジャーナルを作る

*これはJpGUが地球惑星科学の分野で世界の重要なプレーヤーなるために必須の条件

② 画期的なアイデアの出版プラットフォームを保持

→日本は地球上で特色ある地域に位置する（地震、火山、黒潮、台風など）。将来、時代を超えた新説が日本から提案された場合、これをPEPSに掲載できれば本望

*事例：湯川秀樹論文、NatureでReject、「物理学会誌」+「京大紀要」に掲載。今でも、物理学会は、これを大変誇りにしている。

③ AGU, EGUのジャーナルで出版される論文と同等レベルの論文のPEPSでの出版

④ Review論文の推進

⑤ ジャーナルで「財政」をうるおす→未達成

ジャーナル出版を成功させるための課題

当時の担当者ファイルのコピーなので記憶が多少あやふや

2010年時点での問題点：

1. 英文オンラインジャーナルに関する見積もり
出版経費について、Open accessで、英文オンライン-letterは不可能ではない。英文オンライン-reviewについての見積もりはこれから。
**Open access: 海外出版社の出版プラットフォームの活用費用：
J-Stage利用の2 – 3倍（海外発信力の評価の比較検討の必要）**
2. 経営企画会議（2010年4月発足）で、e-journalの出版に**異論**がだされて、現在審議中。また、近年幾つかの（JpGU参加）学協会においてLetter誌の発行。**投稿者の取り合い, 査読, 編集者の無駄な重複**を避ける必要。
3. 新たな雑誌を刊行するには、連合の個人および団体会員の**支持が不可欠**。学会長懇談会での手続き以外に、多くの**会員の理解と支持**を得る必要がある。

Progress in Earth and Planetary Sciences (PEPS)

の創刊：ジャーナル準備2012, PEPS創刊2014

from Springer (Springer-Nature)



JpGU副会長(当時, その後会長)
川幡穂高 (東大
・名誉教授)
元ジャーナル企
画経営委員会委
員長



総編集長
(2013~2020)
井龍康文
(東北大・教授)

PEPS誌編集委員会の構成

編集委員：国内59名，海外36名

将来の継続的発展：次の20年間は組織対応

総編集長

川幡穂高（早大・
特任教授+東大・
名誉教授）・元経
営企画委員長



大気海洋科学分野
編集長
河宮未知生
(JAMSTEC)



固体地球科学分野
編集長
吉岡祥一（神戸大）↑
片山郁夫（神戸大）↓

生命地球科学分野 編集長

高野淑識（JAMSTEC）



前総編集長

井龍康文，
大谷栄治，
多田隆治
(東北大・東大)



宇宙惑星科学分野
編集長
倉本 幸（北大）



地球人間圏科学分野
編集長
飯島慈裕（三重大）



複合領域編集長
後藤和久
(東大)

PEPS発展のステップと対応

① ブランドの構築, 最初が肝心

「IF高いジャーナルを作ろう」というのは本来の趣旨でない
「大事な局面で選ばれるジャーナル」

- * 良好な研究成果の発表, 昇進, 予算獲得
- * 出版数は追わない, IF付与以前にも「質の高い研究成果を募集」と宣伝

② サポーターは存在した (感謝している)

- * AGU, EGUなどのジャーナルへの投稿者が一部をPEPSに変更

③ プラットフォームへ過度な期待をしない

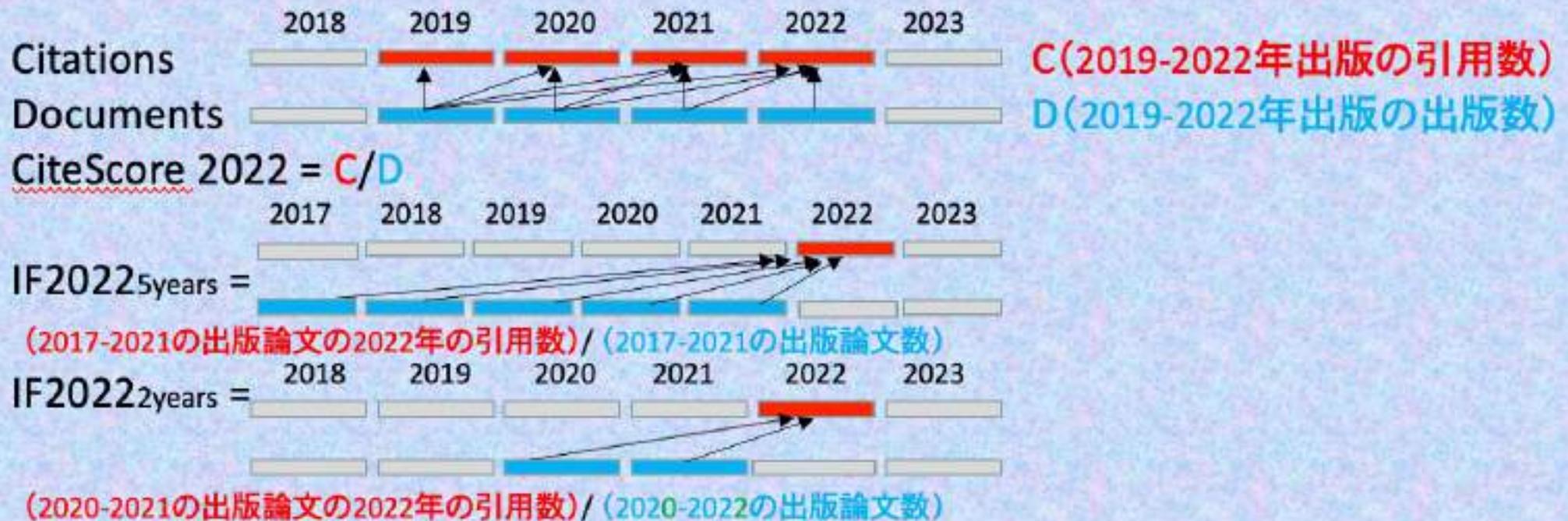
- * 「Open Access料金, ぼられている」「出版会社のサポートが小さい」→Communityが努力する

④ ジャーナルで「財政」をうるおす→新ビジネスモデル, 未達成

(AGUの予算28億円はジャーナルが収入源) →科研費科学研究費補助金
(研究成果公開促進費, 国際情報発信強化) に大変感謝

評価指標算出の概念図

Schematic diagrams for “How to calculate evaluation metrics”
CiteScore by Elsevier + Impact Factor by Clarivate Analytics



PEPSの評価指標は上昇

PEPS' evaluation indicators have been raising rapidly

IF_{2years} (2.481@2018 → 3.9@2023)

IF_{5years} (3.875@2021 → 4.0@2023)

CiteScore (3.8@2019 → 7.0@2023)

PEPSのジャーナル評価指標

AGU, EGU旗艦ジャーナルのレベルに到達@2023

PEPS' evaluation indicators have been raising rapidly

IF_{2years} (2.481@2018 → 3.9@2023) ≡ AGU米+EGU欧 J.

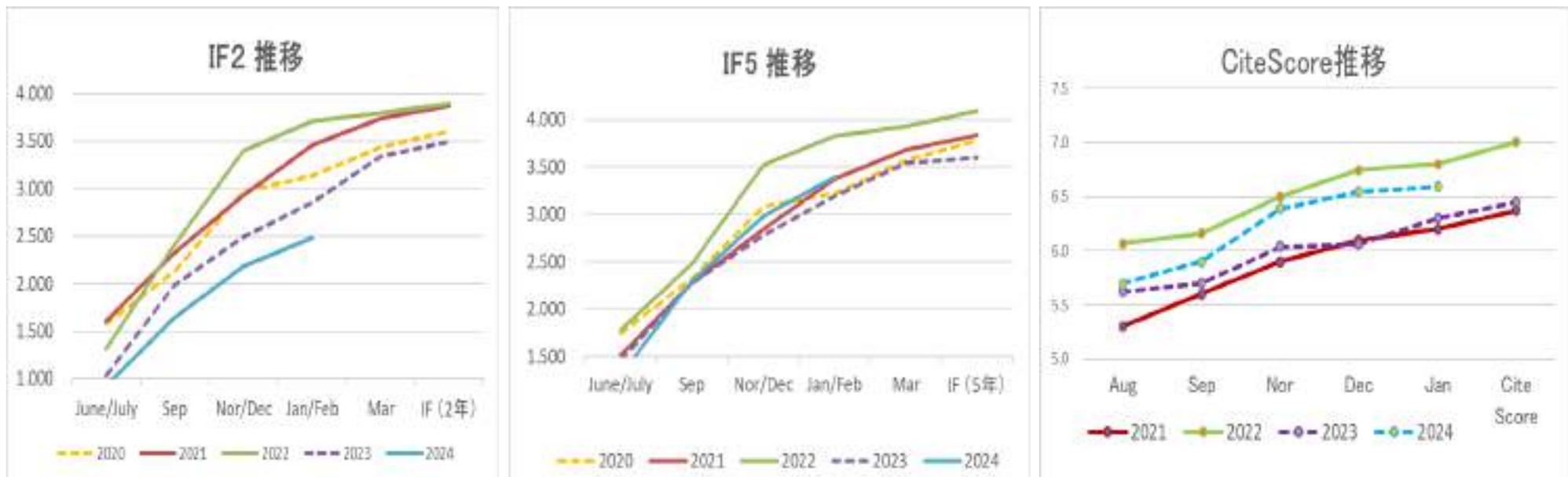
IF_{5years} (3.875@2021 → 4.0@2023) ≡ AGU米+EGU欧 J.

CiteScore (3.8@2019 → 7.0@2023) > AGU米のJGR

2024にはQ1 (上位25%) 達成,

その後, IF_{5years}とCiteScoreは上昇↑, IF_{2years}は停滞

理由: 地球惑星科学の論文は「長期間引用される傾向」あり



AGUの旗艦誌“Journal Geophysical Research(JGR)”の IF は3.7~4.4

出版状況, 投稿状況

① JpGU会員が1万人の割に出版数が少ない

→これはcommunityの実力か?

→AGU米のジャーナルに投稿する人は結構多い

② 2025年は出版数は倍増

③ 近年のReject率は50%, 日本人は30%程度

④ 2023, 2024年は踊り場, 2025年は新たな成長

■出版状況

(2025/07/07)

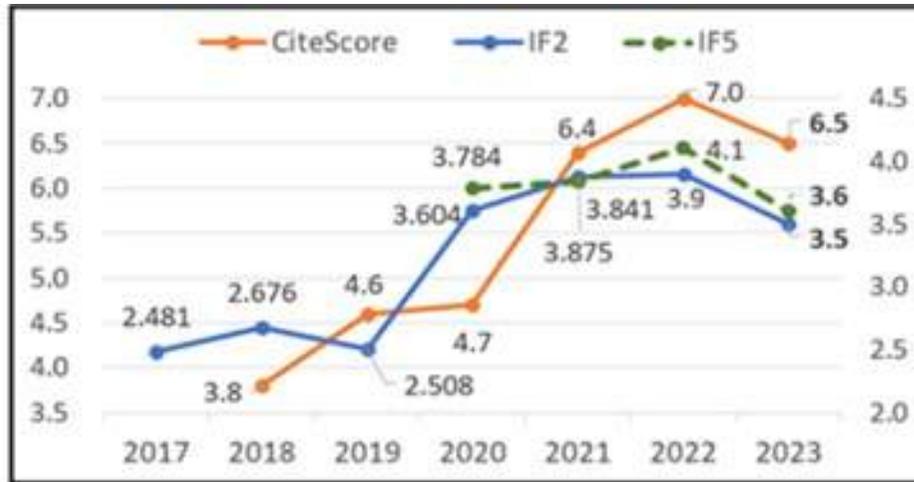
	~2021				2022				2023				2024				2025				Total			
	Review	Research	Microbiology Data	Total	Review	Research	Microbiology Data	Total	Review	Research	Microbiology Data	Total	Review	Research	Microbiology Data	Total	Review	Research	Microbiology Data	Total	Review	Research	Microbiology Data	Total
1. Space and planetary sciences	20	40	2	71	1	8	3	10	1	0	1	2	0	1	0	1	0	7	0	7	51	54	8	91
2. Atmospheric and hydrologic	13	85	8	100	1	13	3	17	3	11	2	10	1	10	2	13	0	9	0	9	18	128	15	161
3. Human geosciences	2	31	2	35	1	3	2	6	0	2	1	3	0	3	0	3	0	3	0	3	3	42	5	50
4. Solid earth sciences	22	105	5	132	3	21	1	25	12	23	2	37	6	22	4	32	1	10	2	13	44	181	14	239
5. Biogeosciences	3	31	2	36	1	7	1	9	2	0	1	3	0	12	0	12	0	9	0	9	6	50	4	60
6. Interdisciplinary research	12	34	10	56	0	4	1	5	0	5	0	5	0	4	0	4	1	6	1	8	13	53	12	78
Subtotal	81	326	29	436	7	54	11	72	18	41	7	60	7	52	6	65	2	44	3	49	115	517	56	688
Editorial/Correction	-	-	-	4	-	-	-	0	-	-	-	0	-	-	-	0	-	-	-	0	-	-	-	4
Total				457				73				70				68				50				718

■投稿状況

	~2021				2022				2023				2024				2025				Total			
	Review	Research	Microbiology Data	Total	Review	Research	Microbiology Data	Total	Review	Research	Microbiology Data	Total	Review	Research	Microbiology Data	Total	Review	Research	Microbiology Data	Total	Review	Research	Microbiology Data	Total
1. Space and planetary sciences	37	90	7	134	3	6	3	12	2	7	0	9	1	25	3	29	1	7	0	8	44	135	13	192
2. Atmospheric and hydrologic	19	146	14	179	3	21	4	28	2	31	1	34	3	25	2	31	1	18	0	19	28	242	21	291
3. Human geosciences	5	51	3	59	0	6	1	7	0	5	1	6	0	6	0	6	0	5	1	6	5	73	6	84
4. Solid earth sciences	31	170	12	213	9	40	0	49	11	44	8	63	1	37	4	42	2	21	2	25	54	312	20	382
5. Biogeosciences	4	57	5	66	3	3	1	7	1	30	1	32	0	16	1	18	0	21	8	29	8	104	16	133
6. Interdisciplinary research	16	67	12	95	0	11	1	12	1	15	1	17	2	12	2	16	1	13	4	18	20	118	20	158
Subtotal	112	581	53	746	18	87	10	115	17	112	12	141	7	124	12	143	5	85	15	105	159	989	102	1250
Editorial/Correction	-	-	-	4	-	-	-	0	-	-	-	0	-	-	-	0	-	-	-	0	-	-	-	4
Total				767				116				145				146				106				1280

PEPSの投稿価格

同等クラスのジャーナルでの論文投稿料と比べて割安



IF/CiteScoreの推移

Open Access Journals

PEPS : 24万円 (円安もあり)

EGU, JGR : 50万円程度

Nature Geoscience : 149万円

ジャーナル名	掲載料 Euro	掲載料万円	Impact factor	Cite-Score
Progress in Earth and Planetary Science	1,490	24.0	3.5	6.5
Geomechanics and Geo. for Geo-Energy and Geo-Resources	2,890	46.2	3.9	6.4
AGU (米国地球物理連合) のジャーナル				
JGR: Solid Earth	3,330	53.3	3.9	7.5
JGR: Biogeoscience	3,330	53.3	3.7	6.6
EGU (欧州地球科学連合) のジャーナル				
Solid Earth	2,790	44.6	3.2	6.9
著名科学ジャーナル				
Nature Geoscience	10,290	164.6	31.7	26.7

APC比較

日本とPEPSの将来への課題①

出版論文のデータリポジトリの必要性
オープンサイエンスが求める研究データ管理

わが国のData repository現状：

- ・ 国立研究機関：（NIRIM, JAXAなど）ではJAIRO cloudで対応
 - ・ 大学は検討中。多くの研究者は海外のdata repositoryを使用
- Springer-Nature recommends for PEPS：
PANGEA, Zenodo, DDBJ (DNA Data Bank of Japan) etc

課題

- ・ 論文データレポジトリ：早急な対応が必要（国益）
学術会議でも議論：信頼できる National Data repositoryが必要との答申
- ・ リポジトリのグランドデザインすでにあり：Japan Link Center（2012～）
： DOI (Digital Object Identifier)付与権限
- ・ 機関リポジトリ（大学図書館など）のコンテンツの拡大が必要

分野ごと：PANGEA（ドイツ）の例：研究機関の連携・共同
地球科学・環境科学分野では参考になるのでは

PEPSの将来への課題②

日本では新規分野のジャーナル創刊不足

→PEPSの守備範囲の拡大 + 新分野の促進

(少なくともJpGU年会での発表内容は守備範囲とする)

→Review論文の促進

学会の数だけジャーナルが存在：国際的ジャーナル競争に対応可能？

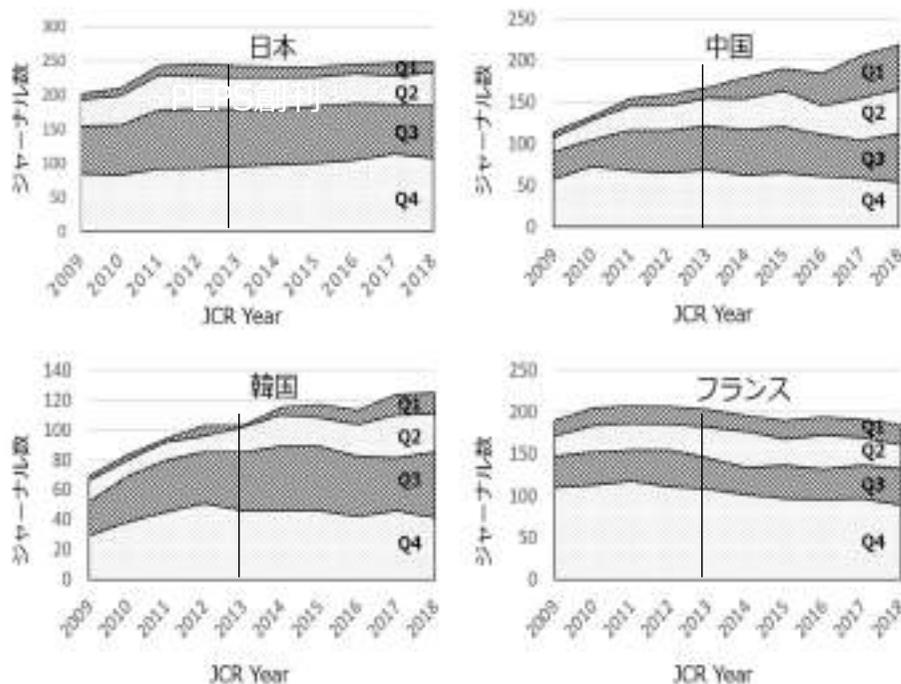


図1 非英語圏4か国のジャーナル出版状況 (成近10年)

棚橋・辻・野村(2019)

表3 各国のOAジャーナル出版状況

2019年版JCR収録誌におけるOAジャーナル数 (2019年6月末)
(カッコ内は各階層における総ジャーナル数)

	日本	中国	韓国	フランス
Q1	5 (15)	23 (54)	3 (14)	4 (24)
Q2	8 (48)	17 (53)	9 (26)	2 (28)
Q3	5 (77)	8 (58)	7 (44)	7 (44)
Q4	0 (108)	5 (54)	1 (44)	3 (89)
OA誌数計	18 (248)	53 (219)	20 (128)	16 (185)

日本学術会議の提言
学術誌問題の解決に向けて「
包括的学術誌コンソーシアム
」の創設提案(2010年8月2日)

日本の学協会ジャーナル出版の現状
～プレゼンス向上のヒント

情報科学技術 69巻11号, 535-541 (2019)

PEPSの今後③

ブランド力強化, 「真の国際誌」へ

筆頭投稿者：現時点では, 国内研究者が25%

将来的には, 海外研究者が50%をめざす

海外ユニオンとの共同開催・共同セッションの促進

→具体的方策：JpGU-AGU 共同開催2026 (2017, 2020)

→具体的方策：JpGU-AGU共同セッション (毎年)

→具体的方策：JpGU-EGU共同セッション (毎年)

目標 (お手本) : Geochim. Comochin Acta, IF5, 欧米日からの投稿論文のReject率少ない30~40%, その他の地域90%) Rejectする投稿原稿が少ない「学術雑誌」

→欧米日からは一定水準以上の原稿のみが投稿される

→「投稿者が質の高い原稿のみ掲載されるジャーナル」とPEPSを認識してもらおうのが一番大事 →利点：査読課程の疲弊を防ぐ

PEPSの今後④

学会による学術出版ビジネスの構築

学会経営：ジャーナル出版での収入を目指す→未達成
(究極の目標, AGU≡米国のユニオン, 28億円程度の収入)

日本人の研究者のメンタリティ：
この30年間の日本経済停滞を反映してか「値上げに慎重」

世間：ラーメン：千円の壁, コスト吸収できず2025年にかけて倒産増
グルメバーガー：>千円, 価格のみが支配することなし

研究者は何を望むか？

- 安い投稿料
- 自分の論文, 皆が手に取る (≡評判の高い) ジャーナルに掲載され, 情報発信力が高まる, , ,

財政が豊かになれば

- ①必要な人に投稿援助, ②宣伝活動, ③ジャーナルのpromotion

本音のレベルの学術出版ビジネスの問題点

私が所属する, JpGUの他に5つの学会の経験を踏まえて

学会長：「学術ジャーナル出版」の将来への展望や施策遂行への本気度？

理事：自分の所属する学会の「学術ジャーナル出版」に、筆頭での論発発表の実績があるか？

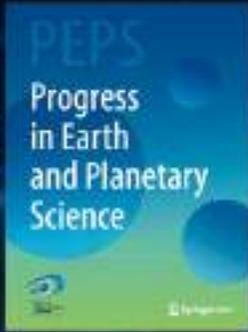
ジャーナル担当者：「学術ジャーナル出版」の価値の一つとして「CHEAP」を最重要項目の一つとしていないか？

学会メンバー：ジャーナルの方針, 定まらず？

(例「博士論文に間に合わせて欲しい」とのニーズに対応)

人事・予算評価：該当する「学術ジャーナル」で出版された論文発表に、高い評価がおかれているか？

Progress in Earth and Planetary Science (PEPS)



Science Sections of our Scope

- Space and planetary sciences
- Atmospheric and hydrospheric sciences
- Human geosciences
- Solid earth sciences
- Biogeosciences
- Interdisciplinary research

We welcome your submission of your excellent research work

Peer-reviewed,
Open Access English Journal
published by Springer-Nature
in collaboration with all the participating societies of

JpGU (Japan Geoscience Union)

6.8 3.8 2.8@2024



APC (Article Processing Charge) 2025:

- JpGU Member: US\$ 1496 / €1248 / £1072 (28% discount)
- JpGU Nonmember: US\$ 1870 / €1560 / £1340
- Review articles: US\$ 1496 / €1248 / £1072 (28% discount)
- Invited articles: JpGU bears all costs.

Q1 Journal (2024)
in "GEOSCIENCES, MULTIDISCIPLINARY" category



<https://progearthplanetsci.springeropen.com/>

最新動向 (2023,2024年の踊り場を乗り越え2025年以降は成長見通し)

2years IFの推移 (2025と2024の比較)

	June	Sep	Nor/Dec	Jan/Feb	Apr	IF2年
2020	1.580	2.133	2.967	3.140	3.433	3.604
2021	1.604	2.331	2.935	3.453	3.741	3.875
2022	1.316	2.412	3.397	3.706	3.794	3.9
2023	1.030	1.985	2.493	2.858	3.336	3.5
2024	0.928	1.645	2.181	2.486	2.681	2.8
2025	1.504					

5years IFの推移 (2025と2024の比較)

	June	Sep	Nor/Dec	Jan/Feb	Apr	IF5年
2020	1.747	2.326	3.088	3.227	3.571	3.784
2021	1.513	2.281	2.851	3.377	3.685	3.841
2022	1.779	2.485	3.528	3.828	3.936	4.1
2023	1.457	2.275	2.782	3.196	3.546	3.6
2024	1.305	2.296	2.989	3.399	3.529	3.8
2025	1.812					

進行中のSPEPS (≡オープン型特集号Special call for Excellent Papers on hot topicS) +ニーズのあるReview →次のステップへ!

PEPSの今後 まとめの概念図



付録

ジャーナル出版に関係した

「研究生態系の特徴①②③④⑤」

研究成果を世界に発信：ジャーナル

時間も労力も限られる現代社会で
研究者が購読する論文は限られる
→まずは手に取ってもらえるジャーナル

200+

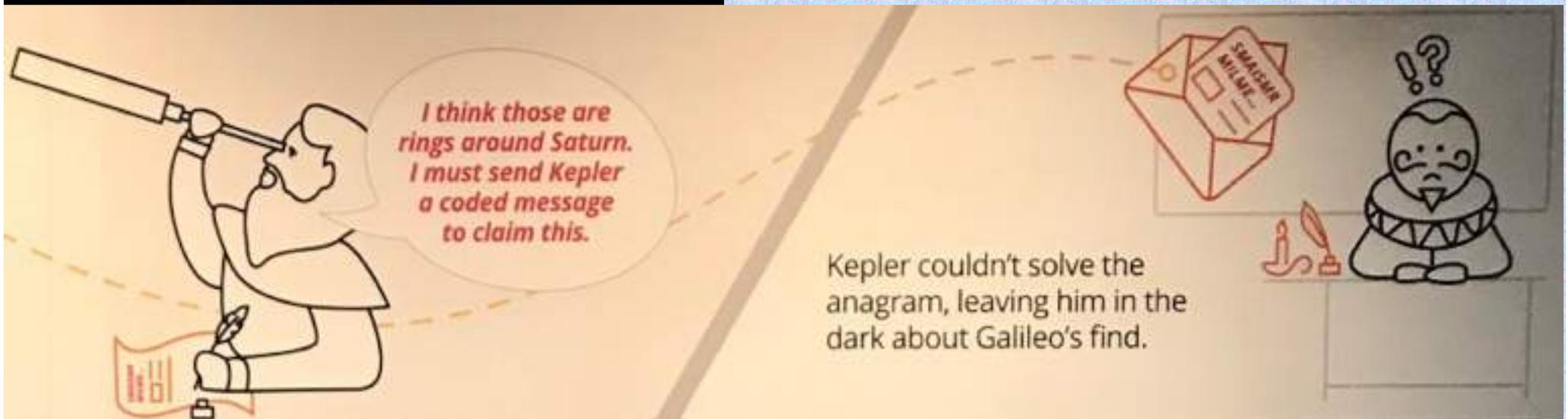
研究者が1年間に読む

平均文献数

According to the report by Tennessee University

「研究生態系①」

1600年代：多くの科学者が自分の発見を暗号化してライバルに送り、「成果の認定」は相手が認めるまで待った



- 科学者は、パトロン(貴族)に気兼ねして成果をオープンにすることを抑制
- パトロンの援助に満足できなくなると成果をジャーナルに投稿するように変化
- 17世紀末までに30の科学雑誌が発行され、1世紀以内にその数は>30倍に増加
- 1710年、英国の議会で著作権法が成立。
- 出版社ではなく、初めて著者が著作権を持つことになり、公共の利益のために資料を国立図書館に寄託する規定が創設
- 20世紀になり、著作権は、出版会社が移動

「研究生態系②」文化・文明の進化

最古の農業(レヴァント地方)@1.3万年前
→「文化Cultureの源」
最古の村(イエリコ)@1.0万年前
最古の都市(ウルク)@5.5千年前→
「市民Civic,文明civilizationの源」
最古の文字(シュメール)@4.6千年前
鉄文化→ヒッタイト@3.6千年前

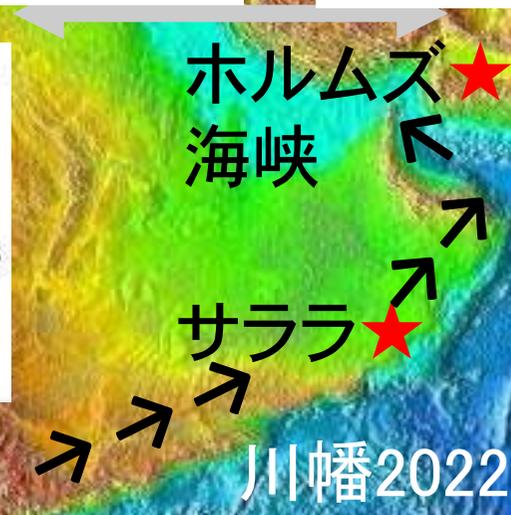
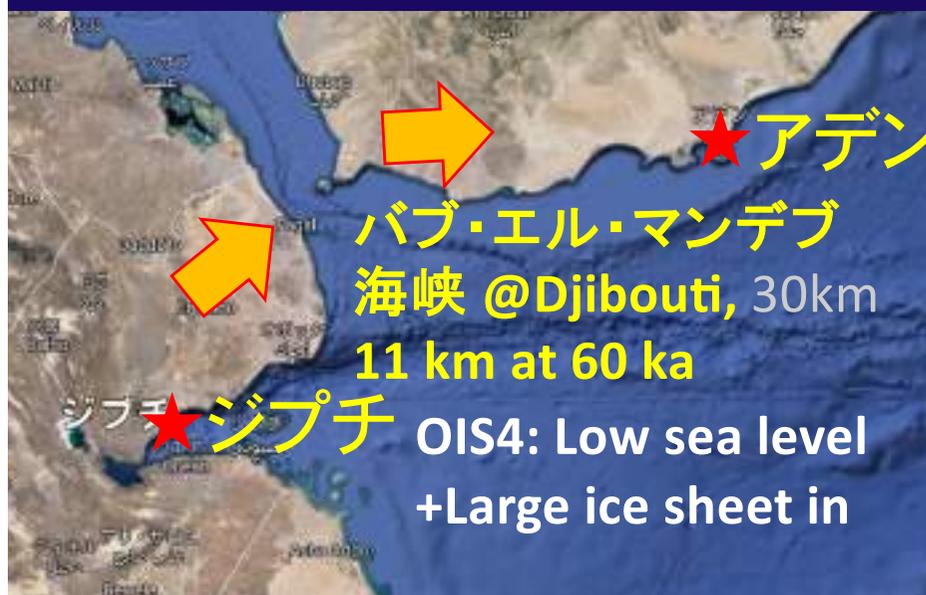


古代中近東の発展(人々の情報交換がイノベーションを産む)

=研究だとジャーナル

エソポタミア

インダス



「研究生態系③」大学教育の変遷(学位授与権)

By 吉見2011

@1158年: 世界最初の大学, ボローニャ@北イタリア

@14世紀: Universitas=Not宇宙/普遍性but「学生+教師の組合団体」, College=教師組合, 学位授与権が担保



@1439年頃:
活字文化by
グーテンベルク



世界最古の印札物@770
法隆寺の「百万塔陀羅尼(ひやくまんとうだらに)」

デカルト@フ
ランス「人間
は考える葦
である」
1662AD没



@17世紀, 大学の死, アカ
デミアの興隆. デカルト,
パスカル, ライプニッツな
ど近代知の巨人らのほと
んどは大学教授を生業と
していなかった.



研究発表の馬=ジャーナル

@1876, ジョンズ・ホプキンス
大学で「大学院」新設. 大学
教授は「教師」より第一線の「
研究者」であることが要求さ
れた. 大学の目的は「研究者
」を育てることに変化.



@1871, 大学の復活, 帝国の大
学=フンボルト型大学では「教
育中心」から「研究志向」(ゼミ
ナールや実験室の導入), 科学
技術立国

「研究生態系④」 研究のサイクル

出版事業：

成果発表 + 世俗的効用

課題の設定

研究資金の獲得

最終的に
査読有誌上発表
(全世界に発信)

室内での分析・
データ解析

試料の採取
フィールド調査

査読 (研究者のボランティア) なし文章は私文で, 誤りがあるかもしれない→
専門分野の科学者の査読 (審査) を経て, 初めてPublicな文となる

「研究生態系⑤」 成果の発表形態変わるか？ 芸術は現代でも大学はその中心ではない



美術 音楽



食文化
Gérard
BOYER
@Les
Crayeres, Reims

- ✓ ブランドは大学から個人へ：
- ✓ 大学ランキング（多くの問題はあるが）に皆が注目する理由は「未来を占う因子」が隠されているからであろう。
- ✓ 本からジャーナル, Open Science・Access+Data
- ✓ 「ネット」の時代：「知の創造」は, 大学の外側でも拡大（Open Access教科書・Online授業の提供）